

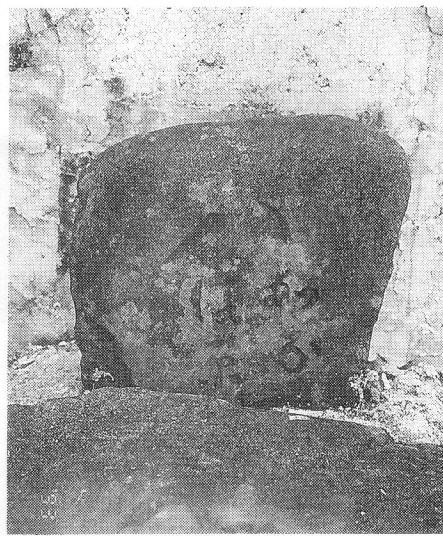
しるべどていし  
印部土手石 (ハル石)



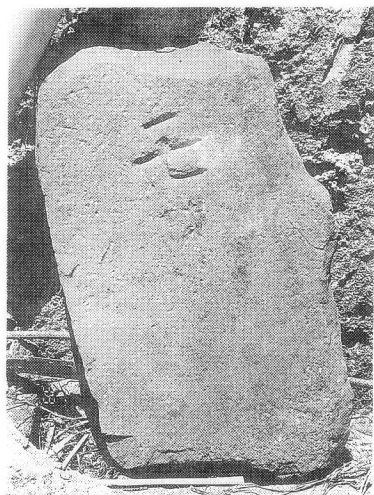
字嘉数



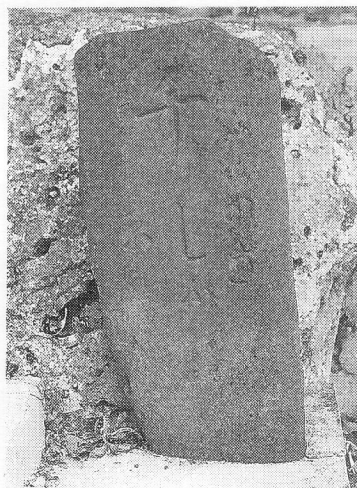
字上田



字伊良波



字豊見城



字根差部

印部土手石は別名ハル石ともいいます。印部土手石は1737年～1750年に琉球王府時代の図根点で先島を除く沖縄本島と周辺離島で行なわれた「元文検地」の際に設置されました。

「元文検地」とは田畑を所有する集落に課税をする為に行なわれた測量で、その際、起点となったのが印部土手石といわれます。

印部土手石は所在地の小字名と順序を示す記号が記されています。記号はカタカナあるいはひらがなで「い」「ろ」「は」などの文字が表面に書かれ、その下に小字名が書かれています。材質はそのほとんどが細粒砂岩さいりゅうさがん（方言名ニービヌフニ）を利用するが、希に琉球石灰岩や焼物を利用したものがあります。

村内においては現在12個の印部土手石が確認されていますが、当時のままの形で残っているのではなく、屋敷内の片隅で拝んだり字で祠をつくって拝んでいるのもみられます。その他、門口やT字路等において「石敢當」いしがんとうのようにおかれているのもみられます。